

C-18 大裁長着の衿肩明きの裁ち方と衿付けの製作

湘北短大 ○本田雪子 東京家政大短大部 神田和子 東京農工大工 木下隆肥路

目的 私達は和服構成の学習効果をあげるために、型紙利用を前提として衿付け線の新しい作図法を發表した。¹⁾ この方法は従来のフリーハンドによる方法を改め、コンパスを用いて機械的に作図し、数学的な取扱いが可能である。新作図法を要約すると次の通りである。(1) 衿付け線(衿肩まわり部分)の作図は、上り線越し寸法を与えて、直線と円弧が接するようにする。(2) 衿型の種類即ち、V型とU型についても同様な作図法を提案した。(3) 衿下り衿付け線の作図でも、直線と円弧が角張らずに接する作図法を採用した。(4) これらの作図による案内点を座標軸上の点として算出した。今回は残された衿肩明きの裁ち方と新作図法による実際の縫製について報告する。

方法 衿肩明きの裁ち方を直線の折線とする簡単な方法を採用し、従来の方法と縫代のなじみやすさを比較する。算出した案内点をもとに型紙を作製して、浴衣地で縫製し、出来上り衿型を検討する。

結果 (1) 衿肩明きの新裁ち方は、縫代のなじみやすさにおいて従来方法と同程度である。(2) 型紙使用によるので、衿付けに熟練を要しない。(3) 作図の方法によって、好みの衿型を明瞭に表現できる。

1) 昭和49年6月22日 日本家政学会関東支部例会にて発表